

## 『学校評価書』

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
教育課程・学習支援	①生徒の生活実態や学習状況を把握し、計画的・継続的な学習ができるよう指導する。	休校期間があったにもかかわらず、学習への取組みは過去3カ年と比較してどの項目も数値が上がっており、まだまだ不十分ながらも計画的な学習が身につけてきている。与えられた課題を7割以上こなしていると答えた生徒は93%に達している。	学習手帳や個別面談を通して生徒の生活実態を把握する。今年度から週33単位になり、週2回6限の日ができた。この放課後の有効な使い方を深めていきたい。家庭学習についても、学年会や各部署と連携を図りながら、学習習慣の確立を目指して包括的な指導を行っていく。
	②公開授業や教科会などで研修・研究を充実させ、生徒が主体的に学べる授業実践に努め、授業力向上を目指す。	授業力向上をめざし、2学期に互見授業期間と公開授業期間を設け、全校体制で取り組んだ。90%を超える教員が主体的な学びを促進する授業実践に取り組みたと回答し、自分の考えをまとめたり伝えたりできたという生徒が約9割に達した。これまでの取組みに対し徐々に成果が出てきており、今後も継続・発展させていきたい。	公開授業期間に研究授業日を設け、統一テーマのもと全校一斉の研究会を行った。初の試みとしてZoom配信を行ったところ40名超の参加者があった。また、互見授業(教科を越えての授業見学や校内研究会)はよい刺激になっていることも多く、授業力向上を目指し今後も継続させていきたい。
生徒支援	①生徒一人ひとりの内面理解に努め、思いやりや助け合いの心を醸成する。	コロナ禍の中で生徒が他人を傷つけない言動を心がけることを十分意識できたが75%と例年より高くなり、おおむねできたも含め97%と目標を達成することができた。ルール・マナーの遵守は99%の生徒がおおむねできたとしているが、今後も機を逃さず指導を継続することが重要である。	引き続き、担任や教科担任、部活動顧問等が日々の関わりの中で適切な指導を行う。また、個別の面談を通して、生徒理解に努め、いじめを早期に発見・対処する。ルール・マナー違反は、発見した教員がその場で指導し、その後、関係教員で共有する。
	②8時15分までに教室に入ることを奨励し「遅刻ゼロ」を目指す。	全体の85%の生徒が不注意による遅刻ゼロとしているが学年が進むにつれその割合が減少している。例年時間的余裕がなくなっていると感じている保護者の割合が増加傾向にあったが、本年はコロナ禍で休校や活動の様々な制約があるためか、規則的で余裕のある生活を送っていると答えた保護者の割合が前年より11%多くなっている。	引き続き、クラスへの8時15分入室を目標とする。生活の基本である早寝、早起き、朝ご飯を推奨し、安定した生活習慣を確立させる。また、家庭での生活時間の見直しについて様々な角度から生徒との面談等を通して助言していく。
	③合唱コンクール・学校祭・体育祭・討論会の充実に努める。	コロナ禍で制限の中での学校行事となったが、積極的に取り組み達成感も得られたと答えた生徒が42%、おおむね積極的に取り組んだ生徒と合わせ82%と前年より割合は多くなった。学年が下がるにつれて積極的・達成感の割合は低くなる傾向となっている。	今後も自主的・主体的な活動を大切に、生徒の自治の精神を養い、生徒会活動の充実、リーダーの育成を行う。1、2年生がより主体的・積極的に参加する色別縦割行事を行う中で学年を超えた交流を充実させ、達成感を得られるような取組みにする。
生徒のキャリア	①進路関連行事を充実させ、的確・適切な情報発信に努める。	生徒の実態に応じた進路指導ができたとする教員が、92%(昨年93%、一昨年95%)と昨年度、一昨年度より2年続けて減少したがまだ高い水準を保っている。増加に転じるため、学年会や各教科との連携を強化させる必要がある。	教員対象ミニ研修会を実施し、教員の進路指導に対する意識をさらに向上させていく。また、生徒対象、保護者対象の進路行事についても内容を精選し継続して実施する。

ア サ ポ ー ト	②入学試験や就職選考試験を分析し、求められている能力の向上・育成に努める。	入学(入社)試験を分析し役立てている教員は昨年、一昨年とほぼ変わらず78%、模試分析を行っている教員も昨年度と変わらず95%で、高い水準を保っている。また、生徒の模試等の見直しは昨年度の69%から大きく増加し80%と高い数値となった。模試を受験する意義や復習することの重要性を理解して受験する生徒が増加し学力向上に繋がることを期待できる。さらに、保護者による子どもの進路把握度は92%(昨年87%、一昨年86%)で、その関心の高さが一層強まっていることが窺われる。	教科会等で入試問題等の分析を行う機会を設ける。模試の結果を学年会、各教科と共有し、分析を依頼して、連携を強化し対応していく。また、個々の生徒に対応した分析を行い、それを生徒に還元することで、模試や考査を見直す意義を考えさせ、さらなる意識向上につなげる。受験直後に教員によるポイント解説などの働きかけを行っていく。保護者とはさらに連携を密にして納得のいく進路実現を目指す。
	③大学入学共通テストをはじめとする、新しい入試制度に関する情報収集に努める。	進路情報に関する満足度は、保護者が93%(昨年91%、一昨年89%)、生徒が96%(昨年89%、一昨年84%)であり、保護者・生徒ともに取組みを高く評価しているといえる。	今年度から実施された大学入学共通テストの結果を分析し、入学当初から学年に応じた進路オリエンテーションやガイダンスを一層充実させ、生徒への情報発信をきめ細かく行っていく。また、保護者への情報発信も引き続き行い、関心の高さを維持する。
保 健 管 理 ・ 教 育 相 談	①検診結果をもとに自己の健康状態を把握させ、日常的に生徒自ら健康管理ができるように努める。	88%の生徒が自己の健康管理をなんらかの形で行っており(昨年85%)、日頃の指導の成果が現れている。新型コロナウイルス感染拡大防止対策指導も含めて、今後も継続した指導を行っていく。	現在行っている健康に関する自己管理能力の更なる充実と、生徒保健委員会を活用した保健LTの内容の充実を図る。虫歯の治療率が向上する働きかけを検討していく。
	②時間いっぱい清掃に取り組ませるとともに、教室や身の回りの整理整頓、ごみの分別など環境整備に努める。	時間いっぱいに取り組めたと感じている生徒の割合は昨年よりもさらに高く95%となった(昨年92%)。教員から見た評価は逆に下がった(97%→92%)。場所によっては、生徒の自己評価がやや甘い可能性もあり、引き続き指導していく必要がある。	引き続き、クラス担任との連携のもと継続的に取り組んでいく。ゴミの分別については、生徒美化委員会との連携のもと、生徒が主体的に行動できるように指導していく。10分間の清掃時間により集中して取り組めるように手立てを検討する。
	③担任・学年主任ならびに保護者との連携を密にして、生徒と面談する機会を多くもつことに努める。	99%の生徒が面談で話を聞いてもらえたと感じており、昨年(94%)以上に高い結果となった。面談回数については、88%の教員が目標に達しており、面談の重要性の認識が定着した。	今年度から、不定期ながらSCが配属され、生徒や保護者、クラス担任が活用できた。来年度は、よりスムーズにつなげることができるようルールなどを構築する。
地 域 住 民 と の 連 携	①PTA 総会、各委員会活動、同窓会総会などの場で積極的な広報を心がけ意見交換の充実に努める。	PTA 総会は書面での開催となったが、返答率は96.2%と高く、保護者の関心の高さがうかがえる。 コロナ禍における制限されたPTA活動となったが、昨年同様97%の高評価を得た。特に学校祭でのオリジナルデザインのうちわ配布や、ページ数を増やしたPTAだよりが好評だった。保護者懇談会では98%から「満足・おおむね満足」と回答いただいた。	引き続き進路指導部と連携し、保護者のニーズにあった講演会を計画するなど、きめ細かな取組みを行って、PTA総会の出席率を高めたい。 コロナ禍による活動制限の継続が予想される中、学校と保護者・地域住民のつながりを大切にし、WEB配信・メールなど様々な手段を用いて意見交換に努めたい。

図書整備	①読書案内や新刊図書の情報充実させ、図書室の利用者数の増加を図る。	図書室を3回以上利用した生徒は、前年度よりも5%減少したが、その要因は、Chromebookの導入によって、図書室でPCを借りる必要がなくなったことが考えられる。 また、広報物に関する質問では、「目を通した」とする割合が8%増加しており、これは、広報の方法として初めてGoogleクラスルームを使用した影響と考えられる。	コロナ禍において図書室の利用が増加した。これは、様々な発表の場がオンラインで行われたことが大きな影響を与えている。また、Chromebookの導入によって、授業での図書室利用も増加している。今後、各授業におけるChromebookの活用法を実際に行いながら研究する必要がある。
	②蔵書数や内容を充実させ、生徒の図書利用を促進する。	読みたい本が、図書室に充実しているかという質問に対して、80%以上の生徒が充実していると答えた。これは、3年前から生徒に購入希望図書のアンケートをとり、その希望にできる限り答えたことが要因と考える。	生徒に対し、今後も購入希望図書のアンケートを実施して、可能な限り実現させる。 また、朝読書週間に合わせて新刊を購入するなど、新刊を紹介できる機会を増やす。
探究的な学習	①教科「探究」に関する授業力の向上を図るため、各科目内の授業担当者が定期的に打ち合わせを行い、授業のあり方について研究を深める。	教科「探究」の組織的な授業改善を図るため、探究科主任を設置して、各科目のリーダーと定期的にミーティングを行い、より良い授業のあり方について検討した。学校設定科目(各学科)の課題研究において「通常授業には無い新たな探究的な学びの方法を取り入れた授業を実施したか」という問いに対して、37.5%が十分できた。57.5%が、概ねできた、と解答するなど95%の教員が、毎年新たな探究的な学びの手法を取り入れている。校内研修の充実により授業改善が着実に進んでいる。 「教科『探究』」の授業は、自分自身の興味・関心に基づき、主体的に『問い』を設定する能力(課題発見能力)を身につけることにつながったか。」という問いに対し、生徒(第1学年・第2学年)の58.2%が「十分つながった」、36.2%が「ほぼつながった」と答えるなど、91.4%の生徒が自身に課題設定能力が育っていると自覚している。授業改善により生徒の能力が高まっていることがわかる。	横浜国立大との共同研究により開発した質問紙調査は、すでに生徒向け調査が終わり、4月には分析結果が明らかになる。そのデータに基づき、4月以降、カリキュラム改善を組織的に展開していく。 教科「探究」の指導充実に向けて、外部との連携をさらに重視したカリキュラムを構築する。外部との連携に際しては、Zoom等を利用した、オンラインでの指導のあり方も昨年以上に充実させる。生徒に対しても、ICTリテラシーを高めた上で、積極的にオンラインでのやりとりを充実させ、海外との連携、研究者からの指導を手軽に行えるよう、工夫する。
学年会	①キャリア実現に向け、3年間を見据えた計画・実施・再検討を各学年団で共有する。  ②HPの充実や保護者会での情報共有を密にし、地域や保護者へ教育内容を分かりやすく提示する。	各部署・各学科・各学年会と連携し、研修会や進路行事を企画し、生徒のキャリア発達・キャリア形成・キャリア実現の支援を行った。結果として、担任団のきめ細かな面談や学びの支援につながり、進路について生徒自身の考えを深めることができた。97%強の生徒が必要な情報を得ることができたと回答している。  コロナ禍においてHPやGoogleクラスルーム、Zoom、YouTube等を利用して可能な限り丁寧な進路情報提供に心がけた。①生活習慣の構築②精神的支援③学習支援④進路情報の提供に焦点を置き、保護者と綿	引き続き各部署・各学科・各学年会と連携し、3年間の見通しをもったキャリア発達・キャリア形成のストーリーを描くとともに、生徒のキャリア実現の支援に努めたい。  コロナ禍によって得た情報配信や交信の方法を上手く利用し、学校と生徒・保護者の信頼関係の構築に努めたい。

		密な情報交換による信頼関係の構築に努めた結果、保護者アンケートでは93%強の満足度を得ることができた。(保護者(3)昨年度よりも、「1 十分できた」の項目が6.2%upしている。)	
--	--	--	--